

| | | |
|--------|----------------------------|---|
| 目指す学校像 | ○希望の登校 ○笑顔の活動 ○満足の下校 | 【未来創造プロジェクト】●心豊かな生徒(ゆたかに) ●自ら学ぶ生徒(かしこく) ●自己実現を目指す生徒(たくましく) 【学校経営方針】凡事徹底とレベルアップ 【目指す生徒像】未来に希望をもち、自ら人生を切り拓く生徒 |
|--------|----------------------------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 学力の定着・向上を目指した授業の工夫・改善 2 信頼関係に立った生徒指導の充実と、きめ細やかな指導をとおした心豊かな生徒の育成 3 安全・安心で心潤う教育環境づくり 4 保護者や地域等との連携協力の推進 |
|------|--|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | 学校運営協議会による評価 | |
|-------------|--|---|--|--|-----------|--------------|-------------|
| 年 度 目 標 | | | | | | 年 度 評 価 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | <p>【学力向上に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○日々の授業で、タブレットを活用し課題解決のための調べ学習や、調べたことの整理やまとめ、プレゼンテーションを行うことに意欲的に取り組む生徒が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に数学の「数学的な見方や考え方」や「図形」「資料の活用」、国語の「読解力」に関する設問について、結果の二極化傾向が見られる。 ○家庭学習の習慣が十分に身に付いていない生徒や先を見通した計画的な学習を苦手とする生徒が多い。 ○教職員全員が、授業や家庭学習における学力向上のために効果的なタブレット活用を模索している。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の学び合い、教え合いの時間の確保 生徒がわくわくする授業の提供 学びの自律化や個別最適化、教員の授業改善に向けた情報端末の活用 | <ul style="list-style-type: none"> 集団で学べる価値を全教職員で共有するとともに、タブレットの効果的な活用を模索し、できることから随時実行していく。 GIGAスクール構想で整備されたタブレットを有効活用し、学習の理解度を高める。数学の「数学的な見方や考え方」についての習得・探求はもちろん、全教科において学力向上を目指すため、できる教科や学年から随時取組を始める。 ①授業において、Teams内のパワーポイントに、個人の考えや班での話し合いで練った意見を全員にタブレットに送り、共通理解を図る。授業の導入では、Kahoot!やQuizletを活用し授業の道義付けを、授業のまとめでは、ミライシードを使い、個人の考えやわかったことを教員に送信する。また、本時の理解度を入力し、学びの足跡にする。 ②家庭学習の充実や学びの自律を図るために、クラスのTeams内にクラスHPを作成し、今日学習したことに関する授業で使用したパワーポイントの掲載、関連するスタディ・サブリの動画や関連問題の掲載を行う。 ③HPには、生徒が明日の教科連絡やクラスメートへの呼びかけ、教員からの宿題(例、予習資料を読む、複数の資料を見ながら、課題に対する予想をたてる等)を掲載する。時には、小学校で学習した内容の動画視聴や問題演習を行わせるなど、個別最適化の学びを充実させる。 ④集団で学ぶことの意義を教職員や生徒に自覚させ、授業中は教え合い、学び合いの時間を多くとる。 | <p>①学校評価生徒アンケート「授業のわかりやすさ」「家庭学習の取組」の各項目について肯定的な回答が、「授業のわかりやすさ」が95%、「家庭学習の取組」が70%に上昇させることができたか。</p> <p>②学力調査の分析結果について校内研修等で、授業改善や具体的手立てを明確にし、授業実践することができたか。</p> | | | |
| 2 | <p>【安全・安心に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回っている。 ○心に不安を抱えている生徒が多くみられ、個々に応じたケアが必要である。 ○生徒主体の安全教育に重点を置き、生徒が常に安全な生活のための様々な活動に取り組んでいるため、災害や危険行為や危険場所に対する意識が高まっている。 (課題) ○コロナ制限は無くなったものの、思春期特有の不安や不透明感からくるストレス等、生徒が抱える悩みが尽きないことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をさらに育てていく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒が安心して生活できる学校生活を送るための安心・安全な生活の充実 安全な生活の確保 生活主体の学びの充実 主体的な生徒の活動 生活主体の学びの充実 | <ul style="list-style-type: none"> 授業や行事等、あらゆる場面で生徒の活躍の場を設定し、できたことを大いに褒めたたえ、生徒の自己指導能力の育成を第一に考え、 ①全クラス担任・副担任が生徒の信頼自己や信頼他者を高めるための方策を考え、具体策をもって日々の学年・学級経営に当たる。 ②長欠生徒の家庭やさわやか相談室等に授業のライブ配信が行えるよう整備し、クラスに入れない生徒の毎日の学びを保障する。 ③スクールダッシュボードの蓄積データ等、タブレット端末を活用して生徒指導や教育相談部会、生徒との面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。ICTにより、蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 ・安心・安全な生活を自ら築く主体的な生徒の育成のため、 ①災害ゼロの町づくりに向けて、実際の被災時に何が必要になるのか、株式会社エールベアクトの協力を得て、生徒が商品開発の研究を行う。 ②今治市立朝倉中学校と協働し、キャリア教育の視点から、災害ゼロの町を創造する。 ③中学校区安全マップを見直し、安全マップディッシュを生徒が与野本町駅前地域の方に配布し、地域全体での防災意識の啓発に努める。 ④生活上の安全として、生徒自ら、学校生活での課題を洗い出し、解決に向かうよう、道しるべを示す。現行の校則や生活のきまりの見直しやルール等の策定を行う。クラス討議を経て、生徒会本部会や中央委員会で決定し、自主・自律の力をはぐくむ。 ⑤SNS上の個人情報漏洩や誹謗中傷等の未然防止に努めるとともに、デジタルシズンシップ教育を進め、安全なネット社会との付き合い方を学ばせる。 | <p>①1月の心と生活のアンケート、全校生徒の信頼自己が高い生徒(ABC判定)の生徒数が90%以上となることか。</p> <p>②学校自己評価に係る生徒アンケートにおいて、「楽しく学校生活を送っている」の肯定的な回答の割合が95%以上、保護者アンケートにおいて90%以上になることができたか。</p> <p>③学校自己評価に係る生徒アンケートにおいて、「交通ルールを守って登校、自分の命は自分で守る」という意識の高まり」の2つの設問の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。</p> | | | |
| 3 | <p>【開かれた学校に関する取組】 (現状) ○昨年度も、学校運営協議会での話し合いの内容を確実に実行し、地域や家庭と一体となった数々の取組を行うことができた。地域の方々の本校への愛の深さを常日頃から感じている。今年度は、開校70周年を迎え、学校運営に携わってきた先人に畏敬の念を表すとともに、各行事に70周年の冠をつけ、皆でお祝いの企画や運営を行っていく。運営協議会では、常に、自ら課題を見出し、協働して解決し、さらに生徒を地域全体で育てていくことを確認している。 (課題) ○今年度も、昨年度の実践を生かし、さらに多くの地域の方々とのプロジェクト参加を促していきたい。より一層、学校・家庭・地域が一体となった実践を熟議によって決定・実行していく。望ましい生徒の姿や学校に期待することを、家庭・地域・企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人が共有できるようにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地域ぐるみでの取組 地域での実践 生徒の主体的な活動 地域貢献と実践力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールを更に進め、地域に根差し、地域とともに成長する学校にしていくため、昨年度までの取組を一層充実させる。 ①災害ゼロの町づくりに向けて、生徒が積極的に地域に目を向ける活動を行う。A地域の清掃活動 B 夏祭りの中学生神輿 C 地域の避難場所運営訓練において生徒によるAEDの普及活動 D 地域防災・安全の視点に立った未来くるワーク体験 ②開校70周年記念式典に向け、生徒が考案した歌詞を歌手の石井あけみさんのプロデュースで記念ソングを創り上げるとともに、地域や保護者の協力のもと生徒が歴史と伝統を理解し地域に感謝の持てる式典にする。 ③学校運営協議会で熟議し、校内に学校・地域交流センターを立ち上げる。 ④小・中4校の生徒・児童本部会を開催し、地域をよりよくするため、小・中学生が力を合わせてできることを決定し、地域と協力しながら子ども達の意見を具現化する。 ⑤部活動の地域移行化・中学生のスポーツ活動の多様化を推進するため、A学校開放委員会に所属している団体やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ NPO法人与野クラブに平日の夕方や土日の指導をお願いし、指導者を確保する。B現状ある競技以外に地域で新しい種目を立ち上げる。本校を基盤に中央区の4校から募集する女子サッカーチームを作り、部活動の地域移行化の第一歩とする。C平日の昼間に施設を地域の方々に開放し、生涯スポーツの一助となる。 ⑥学校行事等について、学校に関わる人々がオンラインで参観できるようにする⑦大人の「与野西学」を立ち上げ、講師の先生をお招きしてこの地域の歴史を座学で学んだ後、実際に地域を足で回り、歴史的・文化的背景を肌で感じる。 | <p>①学校評価保護者アンケート「保護者や地域の協力による教育活動の推進」の項目に対し、肯定的意見が90%以上になることができたか。</p> <p>②学校運営協議会でのアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す生徒の姿を共有でき、地域ぐるみで子どもを育てるための具体的実践を行ったか。」の項目に対し、肯定的な回答が90%以上になることができたか。</p> | | | |
| 4 | <p>【教職員の資質向上に関する取組】 (現状) ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○アクティブ・ラーニング型授業の実施について、定着が図られつつある。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。教職員全員が、授業で効果的にICT活用が図れるよう、研修が必要である。 ○多様な学習場面(家庭学習、オンライン学習)・学習形態(個別学習、探求型学習)・指導目標(基礎基本の定着、学び続ける力の育成)とICTの活用について効果的な関連性が教職員の中で定まっていない。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 教職員一人ひとりが持っている力を最大限に引き出すための環境整備 生徒と教員がともに成長するよう、自己実現の場づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で組織的に、教職員の授業内容やICTの活用能力の向上に取り組むために、 ①全教職員が、校内研修や校内有志強会(ICTカフェ等)で、Teamsの課題配信をはじめ、Kahoot!やQuizlet、Canva等が活用できるよう、エバンジェリストを中心に教え合い学び合いを行う。多様な生徒に対応した教科指導の実現に向けて、タブレット端末の効果的な活用方法を定期的な校内研修で模索し、全教職員で実践する。 ①教職員がお互い授業を見合い、「学びの指標」のチェック項目に照らし合わせ、タブレットの効果的な活用や学び合いの視点を重視した助言を行い、個々の授業スキルアップを図る。 ②教職員が、キャリアパスポートに基づいたスキルを明確化し、自己評価シートにスキルアップ・キャリアアップ項目を明記し、実行する。 ③全教職員が勤務時間外4.5時間以内になるよう、自分自身の仕事の見直しやマネジメントに責任を持つ。 ④日々の欠席連絡はもとより、学校だより、学年だより等のデジタル配信が行えるスクリーンや、三者面談の予約等のMicrosoft Bookingの活用、情報共有でTeamsを積極的な活用を繰り返し実践することで、事務仕事の効率を図り、浮いた時間を授業準備に充てる。 | <p>①教職員アンケート「キャリアアップが図れ、児童に還元できた」「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか」の項目に対し、それぞれ肯定的な回答が、90%を超えることができたか。</p> <p>②教員による学びの指標アンケート昨年度の全教員の平均値3.3ポイントを0.2ポイント上昇できたか。</p> | | | |

学校運営協議会による評価
実施日令和7年2月 日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等

